

Q₁

2019年の自転車が第1当事者または第2当事者※となった交通事故件数を事故類型別にみると、最も多いのは車両相互の「出会い頭衝突」ですが、その割合は次のうちどれでしょう？

- ①約30% ②約40% ③約50%

※第1当事者は交通事故の当事者のうち、過失が最も重い者または過失が同程度の場合は被害が最も軽い者。
第2当事者は過失がより軽いか、過失が同程度の場合は被害がより大きいほうの当事者。

Q₂

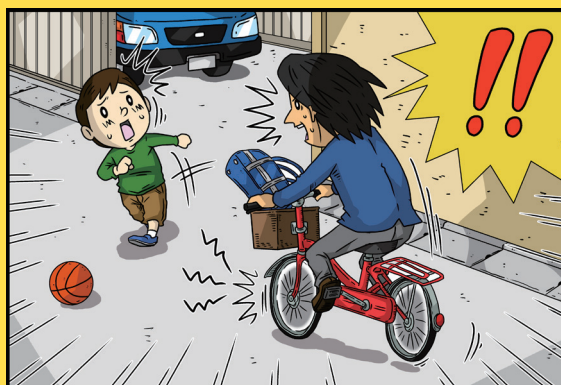
2019年の自転車乗用中の交通事故死傷者数を年齢層別にみると、最も多い年齢層は次のうちどれでしょう？

- ①10～14歳 ②15～19歳 ③20～24歳

Q₃

自転車のブレーキは乾燥した平坦路面を10km/hで走行している時、ブレーキをかけてから何メートル以内で止まれるものでなければならないと定められているのでしょうか？

- ①3m ②5m ③8m



【使用上の注意】

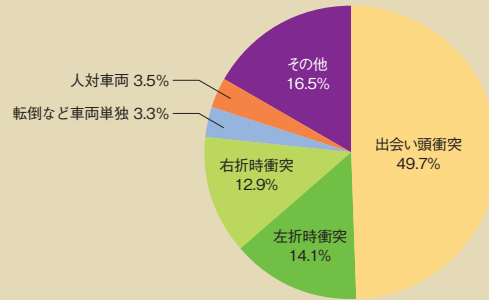
●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業(株) 安全運転普及本部 TEL:03(5412)1736

Q1 解答 ③約50%

<解説>

2019年の自転車（第1・第2当事者）の交通事故件数（8万473件）を事故類型別にみると、「出会い頭衝突」が49.7%と最も多く、左折時衝突14.1%、右折時衝突12.9%と続いている。出会い頭事故を防ぐため、自転車利用者は一時停止標識のある交差点や見通しの悪い交差点を通行する際は、必ず止まって左右の安全を確認してほしい。たとえ、走り慣れた道であっても、危険はないだろうと思いつい込んだり、進行しながらの安全確認では視野が狭くなったり、見落とす可能性もあり危険である。

●自転車（第1・第2当事者）の事故類型別・交通事故件数（2019年・構成率）

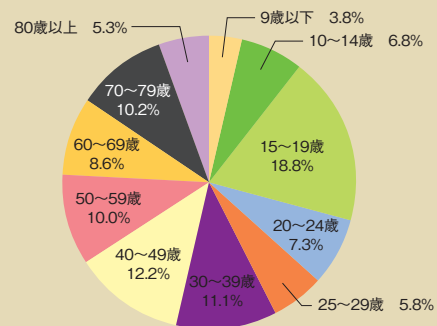


Q2 解答 ②15~19歳

<解説>

2019年の自転車乗用中の交通事故死傷者数（7万8982人）を年齢層別にみると、15~19歳が18.8%を占め、他の年齢層に比べて多くなっている。15~19歳は高校生に該当する年代である。通学で自転車を利用するケースが増えることから、高校生年代の死傷者が際立って多いと考えられる。自転車乗用中の事故を減らしていくためには、高校生年代への交通安全教育により力を入れていく必要がある。

●自転車乗用中の年齢層別・交通事故死傷者数（2019年・構成率）



Q3 解答 ①3m

<解説>

道路交通法施行規則では、乾燥した平坦な路面において10km/hの時、ブレーキをかけ始めてから3m以内の距離で自転車を停止させる性能を有することと定められている。しかし、実際に目の前に危険が現れても、走行環境や人の認知・判断の時間もあり、その通りには止まらず、気づいた時には事故に遭っていることもある。さらに、雨天時の濡れた路面などでは停止距離も長くなるため、ゆとりを持って早めのブレーキ操作を心がけることが大切である。

【使用上の注意】

●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業（株）安全運転普及本部 TEL:03 (5412) 1736